

A-PARTNERS

足立区 NPO 情報紙
つくる。つながる。ひろがる。

No.43
2023年9月15日発行

笑顔
につな
がる

みんな
集ま
れば



特集

プラットフォームで広げる支援の輪
強みを組み合わせ若者への支援を広げる取り組み
あだちユースサポートネット

トピック

- 〇 聞きたいあなただけのストーリー ハッピーハロウィンプロジェクト
- 〇 センターピックアップ あだちデザインLABO
- 〇 あだち皆援隊講座 子ども記者体験教室レポート
- 〇 コラム スタッフのつぶやき

編集・発行 2023年9月15日 足立区 NPO 活動支援センター
〒123-0851 足立区梅田7-13-1 (梅田図書館1F) TEL:03-3840-2331 FAX:03-3840-2333 担当所轄: 足立区協働・協創推進課 協働・協創推進担当 TEL:03-3880-5020



あだち皆援隊講座

子ども記者体験教室レポート



子どもたちが NPO 団体のインタビュー取材記事に挑戦

8月5日(土)、親子で地域活動・取材を体験するあだち皆援隊講座「子ども記者体験教室」が、足立区NPO活動支援センターにて行われました。当日は、小学4～6年生の親子が参加。取材のコツから記事の書き方、また、聴覚に不自由のある方のサポートをする団体の活動と手話を体験しました。

取材のコツや記事の書き方を学ぶ前半は、足立よみうり新聞編集長の吉岡仁さんが、メモを取ることの大切さ、結論から書くコツといった取材や記事の書き方をレクチャー。吉岡さんの話を熱心に聞きながら、さっそく、「メモを取ることを実践していた子どもたちの姿が印象的でした。

続いて子どもたちは、実際に取材を始めていきます。この日の取材テーマは「聴覚に不自由がある方のサポート」です。聴覚障がいの方々のサポート活動を行っているデフ・サポート足立の理事長・及川リウ子さん、事務局長・石川真理子さんから、手話を学びました。慣れない動作に最初は戸惑っていた子どもたちも、次第に手話で挨拶や自分の名前を表現できるようになり、子どもたちには笑顔が溢れ、次々と新たな手話を習得していきました。

吉岡さんのレクチャーと、及川さん、石川さんのお話をもとに、いよいよ記事を作成していく子どもたち。最初は悩みながらも、メモを振り返ったり、保護者に相談して、思い思いの記事を作成しました。

参加した小学生は手話の楽しさと表現の奥深さを実感した様子で、「あ、そういうことか!」と思いながら楽しめた」「意味が分かれば楽しくておもしろい手話がいっぱいあるんだと感じた」などの感想を話してくれました。また「友だちの弟の耳が不自由なので、大きくなったら、手話を覚えて会話したい」と支援者の視点に立った活動の大切さを考える子どももいました。

NPO 団体の活動を学び、記事に落とし込むことを経験した子どもたち。この経験が地域活動を知り、地域や社会の問題に対する意識へと繋がるきっかけになったのではないのでしょうか。

あだち皆援隊講座とは

もっと住みやすい「あだち」にするために、私も地域活動に取り組みたい! そんな方々の一歩を後押しする講座です。



デフ・サポート足立の活動や歴史についてインタビュー。この時もメモを取ることは忘れません。



手話は国によって違うこと、方言があることなど、手話についての新たな発見に驚いていました。

「くわしく聞きたい!」
「自分も何かな始めたい!」
と思ったら...

地域にどんな活動があるのかな?
私にも何かできるかな?
もっといろいろ知りたい!!
と思った方は、
足立区 NPO 活動支援センターに
アクセスしましょう。

あだち
協働
パートナー
サイト

Twitter

Facebook



〒123-0851
東京都足立区梅田七丁目13番1号
TEL:03-3840-2331
adachi-npo-center@machikatsu.co.jp

スタッフのつぶやき

最近、相談員との会話の中で、「カラオケでヒップホップを歌う」というものがありました。ある登録団体の方との世間話でもヒップホップの話で盛りあがったばかりでしたので、新鮮でした。ストリートカルチャーとして成長したヒップホップは、既存の価値観に問題提起しながらも、新たな価値を見出すパワーを秘めていて、NPO 活動に通じるものがあるのではないかと思います。社会学者の藤井敦史氏はNPOの専門性のひとつに「現場からのフィードバックで生まれる知識・技術」をあげます。NPO 活動をされる方々は、常に現場に寄り添い、現場からの声を大切にする姿勢を貫いてらっしゃいます。NPO 活動とヒップホップは、ストリート=現場主義の精神が根底にあるのではないのでしょうか。ヒップホップを聴くときの熱量と、NPO 活動に魅了されるときの高揚感。両者の近接性を感じる、今日この頃です。

(センター長・橋爪)

*** 足立区 NPO 活動支援センター開館日・開館時間 ***

開館日: (火)～(日)
開館時間: 午前9時～午後9時30分 (月末の平日は午後5時まで)
休館日: (月)、(祝)、年末年始

特集 プラットフォームで広げる支援の輪

プラットフォームとは、ひとつの団体では対応が難しい大きな課題を、複数の団体で連携・協創し、ゴールへ向かうための基盤となるコミュニティのことを言います。今号のA-PARTNERSは、足立区で活動するプラットフォームのひとつ、「ユースサポートネット」に参加している認定NPO法人カタリバの原久美子さんに、取り組みの内容やメリット、課題について伺いました。

強みを組み合わせ 若者への支援を広げる取り組み

あだちユースサポートネット

背景と活動の始まり

あだちユースサポートネットは、ユース世代（概ね中学生から20代半ばまでの世代）の支援を行っている団体が集まるプラットフォームです。2022年9月に「中高生支援団体情報交換会」という名称で1回目を開催しましたが、長くて読みづらいことから、「あだちユースサポートネット（通称・ユースポ）」という名称に変更しました。現在ユースポには、10代の居場所と学習支援活動などを行っているカタリバをはじめ、同じく学習支援や居場所支援を提供している認定NPO法人キッズドア、子ども食堂を運営しているがるまるやあだち子ども食堂、たべるば、ピース食堂、らたん亭、カフェとら、一般社団法人SODAの9団体に参加。様々な課題を抱えた若者たちに対して協力し合い、孤立や経済的理由などから生じる問題を解消しようと活動しています。

プラットフォーム化の力と可能性

ユースポの設立は、カタリバが足立区内のユース世代支援活動の課題に直面したことがきっかけです。カタリバは足立区より委託を受け、子どもたちの学びと居場所「アダチベース」を運営しています。そのアダチベースに既に通っているユース世代の子はもちろん、まだ出会えてない支援を必要としている子どもたちに、支援を届けるにはどうしたらよいかと考え、足立区のユース世代支援の実状のリサーチを始めました。その際に繋がった団体や、以前から交流があった団体との繋がりが生まれたのがユースポです。さらに、情報交換会の中でのアドバイスや意見の共有から、活動とともに展開するチームとしてアイデアを結集し、助け合いの場を作りました。

その取り組みのひとつに「まかないボランティア」があります。

「まかないボランティア」は、高校生たちがボランティアとして子ども食堂での活動に参加することで、活動に参加する前後に食事をとれる機会を設けるというもの。この取り組みによって若者たちは自己成長や社会貢献の意義を実感し、新たな視点と経験を得ることができるようになります。

「カタリバはボランティア場所の提供はできないけれど、ホームページを作ることなどはできる。一方で、他の団体の方々はボランティア活動の場を提供して、

高校生たちを受け入れてくれる。それぞれができる形で協創できたのはとても大きなことでした」と、プラットフォーム化から生まれた取り組みについて、カタリバの原久美子さんは話してくれました。

課題と今後の展望

「団体により強みが違います。その強みというピースをパズルのように組み合わせ、必要な支援を届けられる形にしていく。プラットフォームになるとそれがしやすくなるんです」と、原さん。その一例として、原さんはまかないボランティアを経験した高校生が、後に自らアルバイトを始めたという例を挙げながら、「まかないボランティアこそ、一団体ではできなかった取り組みである」と話してくれました。同時に、プラットフォーム化によって各団体の壁がなくなり、「私たち」としてユース世代への支援に取り組む姿勢が醸成されたといい、支援の輪が広がる可能性を感じました。

一方で、既に連携している団体に所属している中高生への支援は進んでいます。ただその情報が届いていない層に対しては課題が残っていると原さんは感じています。カタリバをはじめ、ユースポに参加している団体の枠を超え、学校や地域にも情報を広めていきたいという考えです。

「足立区の皆さんは地域貢献欲が高いですよ。だから子ども食堂なども広まったと思います。困っている子がいること、その子たちを助けられることを区民の皆さんに知っていただけるだけで、皆さんが取れるアクションが変わるかもしれません。それは各団体への寄付かもしれないし、既に子ども食堂などの事業を行っている方は、ユース世代支援に手を伸ばして受け皿を広げてみることもかもしれない。そうしたことが起きたらいいなと

思っています」と、原さんは話してくれました。

若者の成長と未来に対する支援は、行政はもちろん、地域活動やNPO団体の重要な使命です。課題はまだ残っていますが、ユースポは中高生のより良い未来のために、情報を届け、協力体制の強化に向けて活動を続けています。



食事や学習支援、就労支援など、ユース世代の支援は多岐に渡ります。

新規登録団体紹介

地域の親子が集まり、つくる 季節のイベント ハッピーハロウィンプロジェクト

ハッピーハロウィンプロジェクトは、ハロウィンイベントを通してハッピーを共有し、繋げていきたいと思う子育て中のママたちが中心となり活動している団体です。毎年10月上沼田東公園でハロウィンにちなんだイベントを開催しています。また、年に一度のイベントの他にも幅広く活動していきたいという思いのもと、2022年に改めて主催の3名でNPO任意団体を立ち上げました。

年々成長し広がっていく

代表の阿出川さんたちがハロウィンの

聞きたい、あなただけのストーリー

イベントを初めて開催したのは2012年。当時は50人ほどが集まるイベントでしたが、11回目となる昨年は親子で総勢500人が集まり、たいへん盛り上がりつつあります。公園各所にミニゲームやスタンブラリーなどの仕掛けや、ワークシoppなどを織り交ぜながら、子どもたちだけでなく大人も本格的な仮装をして、ハロウィンの世界観を作ります。企画から開催当日まで、プロジェクトメンバーがアイデアを出し合いながら、作り上げていくのが特徴です。中には毎年親子での参加を楽しみにしている子、小さい頃から参加し、今ではボランティアスタッフとして活躍してくれる子もいるそう。また

地域の方々など年々、協力する人も増え、「活動を続けてきてよかった」と、阿出川さんは言います。

世代を超えて楽しめる一日を作りたい

「ハロウィンという日本では若者のイベントという印象が強いですが、今後は、孤立している子どもへの呼びかけや、地域に暮らす年配の方が参加しやすいと思えるような工夫をしていきたい」という阿出川さん。

公園の工事に伴い、今年の開催場所は変わりますが、昨年よりもさらにワクワクしても

らえるイベントにしていきたいと話してくれました。



毎年大勢の参加者で盛り上がる！

注目の活動

ワクワクを生み出すアート体験 あだちデザインLABO

足立区を拠点に活動するクリエイターが集い、子どもたちにアートに触れる場を提供したいとの想いから活動を始めた、あだちデザインLABO。団体名には「人生をデザインすることの楽しさを伝えたい」という想いも込められています。

季節に合わせたアート教室や、毎年夏休みには、ミニ縁日の実施に向けたワークショップを開催。小中学生がチラシ作りや宣伝方法を学び、食品販売には、自分たちでパッケージデザインにも挑戦します。

正解のない自由なアートの世界を体験してみたいかがでしようか。



自由なアートの世界を体験